

## 高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）最終処分場 岩手は狙われている？

○ 核のごみ 地層処分 東日本3地域「最も安定」 中日新聞 2012.9.18

### ○ 核のごみ 地層最終処分 東日本3地域「最も安定」

(2012年9月18日)【中日新聞】【朝刊】【その他】

この記事を印刷する

おすすめ 131 ツイート 58 G+ 0

#### 地質学会で発表

原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分地について、地質学の専門家が、日本列島の中では東北東部と北海道東部の計3地域の地層が最も安定しているとの見解を、堺市で開かれた日本地質学会で17日発表した。学術的な視点から具体的な適地が示されたのは初めて。

地層が安定しているとした3地域は、北上山地海岸地域（岩手県など）、阿武隈高原北部海岸地域（福島県）、根釧海岸地域（北海道）。地質学会に設けられた「地質環境の長期安定性研究委員会」の委員を務める高橋正樹・日本大教授が私案としてまとめた。

高橋教授は、まず火山の分布状況に着目した。日本の火山は「火山フロント」と呼ばれる境界線より内陸側に分布する。火山フロントの位置は東北地方などでは数百万年程度変



○ 1986年5月日鉱探開株は当時の動燃事業団の要請により北上山地を対象として、航空写真およびランドサット画像を用いて高レベル廃棄物地層処分に適する地域を選定するため資料を整備している。これによると岩手県に関し地層処分のための候補地点として階上岳（青森県八戸市、岩手県種市町）、天神森（久慈市、岩泉町）、堺の神岳（岩泉町、新里村）、峠の神山（岩泉町、宮古市）、五葉山（釜石市、大船渡市、住田町）、氷上山（大船渡市、陸前高田市）が挙げられていました。この調査は28道府県を対象に行われたものである。1987年動燃からNUMO（原子力環境整備機構）に選定業務は引き継がれ、最終処分場選定は公募方式になり、これ以上の調査は行われなかった。

○ 2015.3.11 報道ステーションにおいても、上記記事と同内容が報道されていました。これを録画したものは下記サイトで見るができます。

<http://www.at-douga.com/?p=13335>

○ 核のごみ 最終処分場 持ち込まない 北海道条例 国に反発 毎日新聞 2015.5.27

原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場を巡り、経産省資源エネルギー庁が6月1、2日の両日、札幌市内で道内市町村を対象とする説明会を開催することが26日、同庁などへの取材でわかった。政府は22日、国主導で処分場選定を行う新しい基本方針を閣議決定しており、説明会でこの方針を説明する。道は、放射性廃棄物を持ち込まない「核抜き」条例を設けていることから、説明会の開催自体に反発の声も出ている。（以下略）

○ 岩手県達増拓也知事選を前に

市民団体からの「原子力政策などに関するアンケート」に回答 2015/8/13

問「国から本県が最終処分場の科学的有望地と指定された場合は」

回答「反対する」

理由は「高レベル放射性廃棄物の処分場について受け入れる考えはないことを表明している」と記載されていました。

回答は以下

<http://sanriku.my.coocan.jp/150813ans.Mr.T.pdf>